

男女共同参画・働き方改革委員会企画 JOYFUL通信

◆◆◆ 男女共同参画委員会 —始動から4年— ◆◆◆

関西医科大学整形外科理事長特命教授

堀井 恵美子

平成29（2017）年に女性医師支援等検討委員会（令和元年度に男女共同参画・働き方改革委員会、令和3年度に男女共同参画委員会と変更）が発足し、8名の女性会員が委員として参集しました。委員会がいかに活動していくかを模索するため、日本医師会主導の「全国女性医師支援担当者連絡会議」に出席し、各地の医師会・他学会の活動状況を知りました。

委員会発足当時、日整会正会員数の女性比率は5.6%で、代議員265名中女性はわずか2名と1%にも届きませんでした。まずは女性会員の声を聴くために「第1回女性医師の現状に関するアンケート調査」を行い、53%から回答を得て結果を委員会報告としてまとめ、日整会誌92巻9号に掲載しました。その上で、①女性会員の活躍を発信するため委員会ホームページを設置する、②広報室ニュースへ『JOYFUL通信』の企画提案をする、また③キャリアアップ支援のため、関連学会における学術集会での保育所開設状況の調査や、海外Traveling Fellowの女性枠の調査および設置準備を始めました。

コロナ禍はわれわれの活動にも影響を及

ぼし、保育所開設・Traveling Fellowの問題への取り組みは棚上げとなっています。

委員会ホームページに関しては、会員限定の広報室ニュースの一部をPDFで閲覧できるようにしたり、女性医師支援を行っている大学整形外科教室のパナーを掲載したり、整形外科関連のTraveling Fellow一覧を作成して情報獲得の一助となるようにしたりしました。日整会の女性会員数が伸び悩んでいる原因の一つに、医学生・研修医へのアピール不足もあると考えます。身近にロールモデルがない場合は敬遠されがちです。指導医の皆様は、当委員会のホームページを、研修医の勧誘・キャリアアップに悩む若き医師の指導に是非役立てていただきたく思います。

令和元（2019）年度からは、日整会理事会へ委員がオブザーバーとして出席する機会をいただき、また委員会から学術総会へ提案したシンポジウムが採用されるなど活躍の場が広がりました。

東京オリンピック組織委員会森前会長の発言で、日本の女性社会進出の遅れが世界的にクローズアップされました（2021年度

男女格差指数は120位）。日整会は、今年度、女性会員数がやっと6%を超え、初めて女性理事が誕生しました。今後、ICT（情報通信技術）を活用しwork-share / flex-timeが可能となれば、一層、女性整形外科医の活躍に期待が持てます。女性自身の意識改革だけでなく、組織が女性指導者を育て、運営に積極的かつ柔軟に参加できる環境を作っていくことも必要だと思います。

産声を上げた委員会が活躍できたのは、理事会の皆様のご理解のたまものです。われわれの意見をどんどん取り上げて発信していただき、委員の励みになりました。委員会の仕事はまだ山積みですが、いつかこの委員会の活動が不要な日整会となることを夢見ています。

JOYFUL通信を117号から掲載させていただき、今回111回目となります。ここに登壇する多様な働き方をしている女性整形外科医の声が、若い方々へのエールとなることを祈ります。